

緩和ケアニュース

第33号

特集：倉敷中央病院 緩和ケア病棟



長谷寺（奈良県） Photo T.I

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院 緩和ケアチーム

2015年11月発行

今回の緩和ケアニュースは、緩和ケア科主任部長の佐野が「倉敷中央病院 緩和ケア病棟」について、解説いたします。

はじめに

2004年から発行してまいりました緩和ケアニュースも12年目を迎えました。今回は2013年に開設いたしました当院の緩和ケア病棟について情報提供させていただきます。

入院病棟の耐震工事を機に、2013年1月17日1棟9階西病棟が「緩和ケア病棟」として生まれ変わり稼働を開始いたしました。これまでに269名の患者さんにご利用いただいております(2015年9月30日現在)。ところでこの「倉敷中央病院／緩和ケア病棟」は私たちが想像している以上にその存在が知られていないようで、入院中の患者さんであっても「緩和ケア病棟があるなんて今回はじめて主治医に聞きました」とおっしゃる方がしばしばおられる状況です。

緩和ケア病棟のイメージ

さて、このニュースをご覧になっている皆様は「緩和ケア病棟」にどのようなイメージを持っておられるでしょうか。テレビや新聞雑誌で取り上げられ、インターネットで検索するとたくさんの情報が得られますのである程度のイメージを持っておられる方も多いかもかもしれません。中には「名前は聞いたことあるけど良く判らないわ」、という方もおられるかもしれません。

「暗いイメージしかないわ」という方はおられないでしょうか。「最期を迎えるところ」「天国に一番近いところ」「治療も何もしてくれないところ」などのイメージでしょうか。

「穏やかなところ」「笑顔で患者さんが日々過ごしているところ」といった明るい温かいイメージを持っている方もおられるかもしれません。

どれも間違っているわけではないですし、でもどれもそうですよ、と言えるものではないようです。

緩和ケア病棟 とは

緩和ケア病棟とはどのようなものかをお伝えしたいと思います。

終末期を迎えた方ならだれでも緩和ケア病棟を利用できると思っている方がおられるかもしれませんが。実は、厚生労働省は緩和ケア病棟の入棟対象者をがんとエイズの患者さんとしています。

緩和ケア病棟とはがんやエイズの患者さんが最期を迎えるための場所でしょうか。それは少し違います。世の中には残念ながらがんという病気でお亡くなりになられる方が年間約37万人と非常にたくさんおられます。その方々がみんな緩和ケア病棟・ホスピスで最期を迎えるわけではありません。実はわが国の緩和ケア病棟のベッド数は全くその数に足らない状況なのです。(たとえば、倉敷中央病院は県の南西部という二次保健医療圏に属していますが、緩和ケア病棟は倉敷第一病院と倉敷中央病院の二病院にしか存在しません。)

では緩和ケア病棟の役割とは何でしょうか。緩和ケア病棟とは名前のとおり緩和ケアを専門的に提供する場所、と言っているかと思います。がんに対する治療はおこなわない、でも緩和すべき苦痛症状をもっている、しかも入院治療が必要な患者さん、そういった方のケアを担当する、というのが緩和ケア病棟の役割です。

苦痛には様々なものがあります。痛みを代表とするからだの苦痛、精神的な苦痛、あるいは社会的な苦痛、また自分の死と生、存在に関する苦悩、スピリチュアルペインというものが生じます。そういった苦痛に対するケアが外来通院や一般病棟で難しい場合に緩和ケア病棟でケアをおこなう、というイメージです。したがって苦

痛症状が落ち着けば自宅退院や近くの医療機関への転院も検討します。

ところで、病気に伴う苦痛は患者さんだけに生じるものではありません。身近で介護されているご家族には身体のつらさや心のつらさがどんどん大きくなって行きます。そういった苦痛に対しても緩和ケア病棟では医療者やご家族みんなで支えあって緩和を心がけます。

緩和ケア病棟で大切にしている事、それは患者さんが苦痛から少しでも緩和され、穏やかにその人らしく生活をし、生活の質 QOL を維持する事です。単に最期を迎える場所ととらえるのではなく、一日一日をどのようにより良く過ごすかを考える場所、とご理解いただければと思います。



倉敷中央病院 緩和ケア病棟のご紹介

では具体的に倉敷中央病院 緩和ケア病棟の紹介をいたしましょう。

苦痛症状を緩和するには、患者さんの置かれている環境を整える事が重要です。穏やかに過ごせる環境、すなわち静かで落ち着いた環境、そして明るい雰囲気、何よりも家庭・家族を感じられる生活をおくっていただけるよう設備や環境を工夫しています。

緩和ケア病棟では、医師（各診療科医師、緩和ケア科医師など）・看護師・薬剤師・作業療法士・臨床心理士・管理栄養士など多くの医療者がケアにあたっています。

お部屋は全室個室で 14 室（無料 7 室、有料 7 室）となっています。病棟、病室は木目を基調とした色彩で採光に配慮した落ち着いた雰囲気となっています。

皆さんでお使いいただける設備としては広いデイルーム、ファミリーキッチン、広い家族風呂、家族控室などがあり、患者さんにご家族が安心してくつろいでいただけます。

食事は一般的な入院食以外に、緩和ケア病棟限定のお食事をお好みにより選択していただけます。

面会時間の制限はありませんので、24 時間いつでもご家族との時間を過ごしていただくことができます。また、入院中に外出や外泊をしたり、退院をして外来通院をすることも可能です。

なお、当院の緩和ケア病棟についての情報は、インターネット倉敷中央病院のホームページや、院内には緩和ケア病棟のパンフレットもご用意いたしております。お尋ねになりたいことがありましたら主治医にお尋ねいただくか地域連携室等にご連絡をください。

さいごに

2014 年 3 月に第 32 号を世に出してしばらくぶりの第 33 号の発行となりました。

当院では 2014 年 4 月に緩和ケア科が診療科として発足し、緩和ケア病棟での診療や緩和ケアチームとしての診療を一層充実させるよう努めています。緩和ケアの普及啓蒙のためにこれからもこの緩和ケアニュースをはじめいろいろな形で緩和ケアに関する情報発信をしていきたいと、緩和ケアチーム一同日々努めているところです。

当院の緩和ケアについて



緩和ケアとは、命を脅かす疾患による問題に直面している患者のみなさまやご家族のつらさを和らげ、その人らしさを大切にする考え方です。

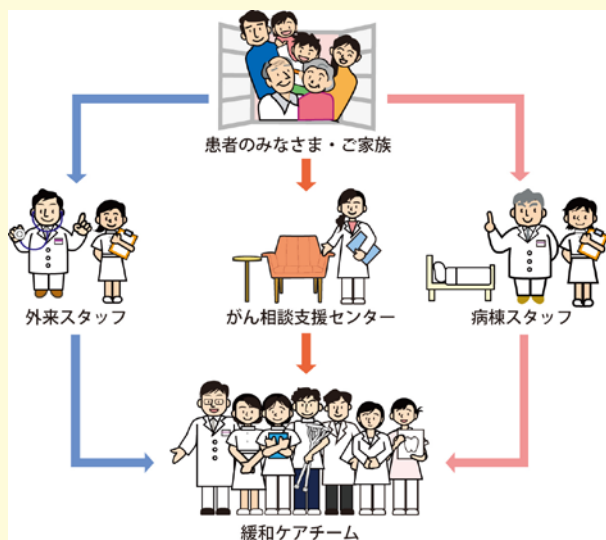
その考えに基づいて、がんなどで治療中の患者のみなさまやご家族が安心して生活を送ることができるように支援するために、当院においては「緩和ケアチーム」がさまざまな活動をしております。

「緩和ケアチーム」のメンバーは、専従医師・がん看護専門看護師・がん疼痛認定看護師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・訪問看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・作業療法士・歯科衛生士などで構成されています。

「緩和ケアチーム」は、治療時期に関わらず、患者のみなさまのからだのつらさ（疼痛・呼吸困難・吐き気など）やこころのつらさ（不安・不眠など）を和らげる治療やケアについてスタッフと一緒に対応します。また患者のみなさまの社会生活やご家族の悩みを含めた包括的なサポートも行います。

ご相談の ながれ

緩和ケアについて話を聴きたい、緩和ケアを希望される際には、まず主治医・看護師（外来・病棟）・がん相談支援センターにお尋ねください。



がん相談 支援センター のご案内

当院ではがんに関する相談をお受けする窓口を設けています。がん相談支援センターへの相談を希望される方は、1-8 総合相談窓口（中央玄関に入って左側）へお声かけください



倉敷中央病院
がん相談支援センター

受付：平日 9:00～17:00

土曜 9:00～13:00

（受付時間は相談時間の15分前までです）

TEL：086-422-5063

発行元：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：佐野 薫（医師）

編集委員：今村 隆（臨床心理士）、里見史義（作業療法士）、原田美雪（緩和ケア認定看護師）
（五十音順）